

II 特別連載 II

科学技術
振興機構

『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第279回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラム(SSP)でも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は九州工業大学が実施したプログラムと、さくらサイエンスプログラムの同窓会組織である、さくらサイエンスクラブのベトナム同窓会について報告する。

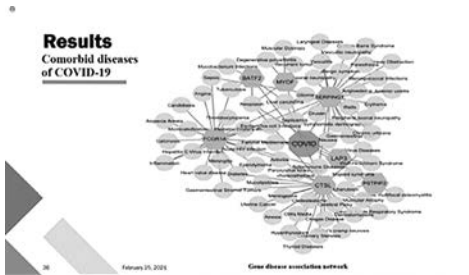
九州工業大学の活動報告



小田部 荘司
(九州工業大学 大学院情報工学研究系教授)
物理情報工学研究系教授

バンングラデシュの
ラジシヤヒ大と共同研究交流

九州工業大学大学院情報工学研究系小田部研究室と倉田研究室、および大学院生命体工学研究科の我妻研究室は、今年2月にバン



発表者のスライド

ングラデシュのラジシヤヒ大学のRubel研究室、Shamim研究室、Khademul研究室とオンラインで国際共同研究交流を行った。各研究室では、週に1回程度、Zoomを使って研究室を繋いだ交流を行った。具体的には、小田部とRubel研究室では、拡散方



オンラインで国際共同研究交流

式の数値解を得るためにProcessingを使ったプログラミングを取り上げ、2月からは超伝導の教科書を使ったゼミを行った。また我妻Khademul研究室では、我妻准教授がEGGについての我妻研で開発されたMatlabのツールについて解説と講演をシリーズで行い、具体的な測定データについてバンングラデシュの学生に解析をしてもらう演習を行った。これらは、来年度に予定されている実際のバンングラデシュ学生とスタッフの来日の際に、スムーズにそれぞれとの研究室での研究活動に入り込むことができる基礎的な訓練になっている。

これまでもこれらの研究室間ではスカイプやフェイスブックなどを使ったコミュニケーションを続けているが、コロナ禍で加速した感がある。つまり直接の交流はかなり難しくなったので、Zoomなどの新しいツールでできることを模索しているうちに、かなりのことができることが分かった。またバンングラデシュは都市部であれば、ネットワークの通信状況はよく、数千キロ離れたという感覚はあまりない。交流の機会が増えることにより、よりスムーズに様々なアクティビティをこなすことができるようになった。

そして2月25日午後には全体が集まって、最終プレゼンテーションを行った。それぞれの研究グループから数名ずつの学生や研究スタッフが、この数ヶ月での交流の成果について発表を行った。数ヶ月ではあまり進捗はないと予想したが、実際にはかなりの学習成果があり驚くほどであった。

次年度の実際の訪日を期待して、今後もオンラインでの国際共同研究交流は続けていくことにしている。コロナ禍であちこちが止まりにかけているところがあるが、逆に加速できる場面として大切にしていきたい。



SPPベトナム同窓会ウェビナー。写真最上段右端は黒木SPP推進本部室長 山田駐ベトナム日本国大使

さくらサイエンスプログラム (SSP)

JST、ベトナム同窓会ウェビナーを開催

JSTとベトナム同窓会の共催で、9月25日に留学生の就学と就職に焦点を当てた「Sharing Our Experiences Studying and Working Abroad」ウェビナーがオンラインで開催され、98名の海外の若者が参加した。今回は、ベトナム同窓会が2019年3月に設立されて以来、最初の同窓会合同となるものであった。

冒頭、ベトナム同窓会主幹事Ngô Văn Quyên氏とJSTの岸輝雄さくらサイエンスプログラム推進本部長からの挨拶に続き、山田滝雄駐ベトナム日本国特命全権大使、ウー・ホン・ナム駐日ベトナム

ム特命全権大使からSSPと同窓会 (SSC) への期待を込めて激励の挨拶があった。山田大使からは、日本とベトナムが多様な分野でさらなる協働を進めたいと国交がさらに深まることを期待する、特に科学技術分野でSSPが二国間の交流の拡大に貢献してほしいとの言葉をいただいた。Vu Hong Nam大使は、日本はベトナムから最も多くの留学生を送っている国でもあり両国間の経済的な結びつきも強く、また、人と人との交流は非常に重要であり、SSPが両国双方の発展に貢献してきており、今後の一層の発展に期待したいと述べられた。

基調講演

まず広島大学大学院先進理工系科学研究科のTran Dang Xuan准教授が登壇した。Xuan准教授は、来日時の経験や直面した問題の克服方法などについて述べられた。特に日本語修得の苦労や研究室でのコミュニケーション、ハードワークの重要性、研究室への貢献の内容、今後のキャリアプランを紹介した。次に、ハノイ工科大学のDr. Le Van Lich講師が登壇。学生に、Ph.D取得における大変さ、指導教官の時間の確保や時間のマネジメントの重要性についての話、論文の執筆等におけるアドバイスをを行った。

日本に留学した同窓生からの発表

米国に留学中のLongさんは、SSPで訪問後、ドクターを取得した東北大や現在所属するシカゴ大での経験を通じて、海外に留学することの重要性について語った。具体的には、最先端の科学に触れるだけでなく文化に触れることや挑戦することの重要性などについて説明した。Hoangさんは、関西学院大学在学中にお世話になった教官との思い出や、健康診断を通じた日本の医療制度への感想、就職活動の経験、日本で働く上でのアドバイスなどについて紹介した。

JASSOによる日本留学の勧め

日本学生支援機構 (JASSO) ベトナム事務所のVu Minh Hanhさんが、日本への留学の申請方法等、有益な情報提供を行った。最後に、JSTの黒木慎一さくらサイエンスプログラム推進本部室長より、SSCがさらに活発に活動できるように今後も支援していくとの挨拶が述べられ、会を締めくくった。今回のオンラインイベントは日本への就学と就職に特化した内容で行った。積極的に質問を寄せてくれた参加者の皆様、講演者、同窓生の皆様に改めて御礼を申し上げる。